

○学習規律の確立による、児童の学習意欲・教師の指導力向上
○家庭と連携した自主学習・読書の充実

学力向上推進員	委員
片山 トシエ	学校長 吉積 清 教頭 笹川 亨 低学年推進員 片山 トシエ 中学年推進員 山脇 朋子 高学年推進員 粟田 佐知

【各校の取組状況の把握について】

授業研究会を中心に教員が相互に授業参観・授業研究をし合い、アドバイスし合って取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算など基本的な知識の定着に成果がある。 ○落ち着いた学習環境の中で課題に真面目に取り組む学習できる児童が多い。 ●学習に集中できない児童がいる。 ●語彙数が少なく、文を書いたり話したりすることが苦手な児童がいる。 ●長文を読み取る力が弱い。 ●学力の二極化傾向がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・学習の過程で身に付けた知識を、既習の知識と関連付けたり他の学習や生活に生かしたりすることができる。 ・豊富な語彙で書く・話すことができる。	・児童が興味を持って学習に取り組むことができるよう、ICTを機器を活用して視覚的に提示したり、発問を工夫したりする。 ・「めあて」「まとめ」を明確にする授業を進め、タブレットなどの活用で復習をして、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・児童のノートに合わせた板書の工夫を推進する。	【わかたけ】 ・プリントやカードを使用し、繰り返し定着するまで継続する。 【低学年】 ・ひらがな、カタカナ、漢字や計算を定着させるよう繰り返し学習をする。また、授業や家庭学習の中での書く活動を充実させる指導をおこなう。 【中学年】 ・漢字の習得を目指して、毎日授業の前に小テストをおこなって、量と質の定着を図っていく。 ・音読の時間を必ず前半に入れて、言語理解や言語活用に結びつけるように繰り返ししていく。 ・短い文章をつなげて、長い文章を作成する力につなげる。 【高学年】 ・タブレット(ミライシード)で、一人一人に個別最適な課題を配信する。 ・45分の授業で「めあて」「まとめ」を明確にする。	【わかたけ】 ・漢字カルタを使ったりタブレットで漢字の問題を解いたりして、漢字への抵抗感が減った。 【低学年】 ・朝のチャレンジタイムや授業中の反復学習などで、漢字や計算の基礎的な力が多数の児童に定着した。 【中学年】 ・日々の授業の繰り返しや学習により、漢字の定着が見られた。 ・知識の量より質を大切に、内容を精選したり、個々の意見の違いや理由を大切に話し合いをすることができた。 【高学年】 ・家庭学習でくり返し漢字・計算練習をすることで、定着した。 ・日記やテーマ作文を書くことで、文章構成を考え書く力がつきつつある。	【わかたけ】 ・ビジョントレーニングやコグトレなどを定期的に行うことにより、認知機能の向上を図る。 【低学年】 ・授業や家庭学習の中での書く活動を充実させるとともに、タブレットの活用も進めながら知識・技能の定着を図る。 【中学年】 ・コグトレなどを用い、認知機能などの向上を図り、日々の生活や学習につなげる。 ・聞く態度をよくするためにも、机上や教室環境を整え、集中できる環境づくりに更に努める。 【高学年】 ・学習の基礎的なトレーニングを続け、学習意欲を高め集中できるようにする。 ・タブレット(ミライシード)で、一人一人に個別最適な課題を配信し、個への対応を一層進める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順がはっきりと分かる学習では、見通しをもち意欲的に取り組むことができる。 ○友達と協働して学習することを好み、ペアやグループでの話し合いで自分の意見が言えるようになりつつある。 ●問題の要点をつかんだり、複数の情報の中から必要な情報を選択したりすることが苦手な児童がいる。 ●自己決定に自信がなく、全体の場で自分の考えを積極的に発表できない児童もいる。	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えを見直したり、膨らませたりする。 ・自分の考えの根拠を明らかにして、条件に沿って書くこと・話すことができる。 ・自ら課題を見出し、その解決に向けた方向性を考え、他者と協力し、必要な過程を計画・実行しながら解決まで導くことができる。	・授業中だけでなく、朝や帰りの会など様々な学習活動の中で、自分の考えを書いたり話したりする機会を設ける。 ・考え方の手立て例や話し方のパターン等を用い、課題に応じた考えること・書くこと・話すことに一人一人が慣れていけるようにする。 ・児童の発言を受容してその考えを整理したり、問い返しを工夫したりして思考を深める。 ・学びを深めるために、タブレットの活用方法を工夫推進する。	【わかたけ】 ・日常や学習の場において、判断する機会をできるだけ多く設ける。 ・ソーシャルスキルトレーニングを継続し、その場に応じた判断ができるように指導する。 【低学年】 ・発表訓練により、自分の考えや思いを積極的に発表できるようにする。また、聞く力も高め、思考を深める指導を工夫する。 【中学年】 ・個人発表の前にペア発表をして、自信をつけてから発言できるように促し効果が上がっているので継続する。 ・インターネットで調べ学習をしたり、ムーブノートで個人の意見をみんなでもとめる活動をはじめたりしているのをさらに進めていく。 【高学年】 ・どの授業でも、単元の終わりに自分の意見や考えを文章にまとめる。	【わかたけ】 ・日常や学習において、判断する機会をできるだけ多く設けたので、自分で考えて判断・行動できるようになってきた。 【低学年】 ・発言パターンの練習を繰り返したことにより、場に応じた発表の工夫ができつつある。 【中学年】 ・自信をもって発表をする児童が増えていたため、授業に意欲的に取り組んでいる。 ・プログラミングの基礎やインターネットの写真や記事を活用した新聞づくりに取り組むことができた。 【高学年】 ・「めあて」をもって学習し「まとめ」を自分の言葉で発表したり文章にまとめることができるようになった。 ・新聞感想文を定期的を書くことで、気付きや考えを文章にまとめる力がついてきた。	【わかたけ】 ・学年の発達段階に応じた思考力・判断力・表現力が身につくよう繰り返し指導していく。 【低学年】 ・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れて、さらに積極的に発言できるようにしていく。 【中学年】 ・自分の意見をまとめ発表すること、友だちと意見を交換する場面のある授業づくりをすることを大切に、より良い授業づくりに努める。 ・学習したことを生かしたプログラミングや新聞づくりをさらに続けて、子どもたちの思考力・判断力・表現力などを高めていく。 【高学年】 ・ミライシードのムーブノートなどを活用しながら、自分の意見をもって友だちと意見交換をし、自らの課題を解決できる授業づくりをする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○体験的な学習を好み、積極的に活動する。</p> <p>○朝の学習(チャレンジタイム)や読書の習慣が定着しており、与えられた課題には前向きに取り組む。</p> <p>●自分のめあてを明確にしたり、考えを客観的に捉えたりすることに課題がある。</p> <p>●自ら課題を見つけたり、難しい問題に粘り強く取り組んだりすることができない児童、集中して学習するために支援の必要な児童がいる。</p> <p>●家庭学習の時間が十分に確保できていなかったり、家庭読書の時間が短かかったりする児童がいる。</p>	<p>・学習課題や自主学習のめあてを考えたり、学習の見通しをイメージしたりしながら学習に取り組むことができる。</p> <p>・課題解決の経験を通して、分かる楽しさやできる楽しさを体感し、学習に対し自信や意欲をもつことができる。</p> <p>・学習に粘り強く取り組むとともに、自らの活動を振り返って学習の成果や課題を今後の生活や学習につなげることができる。</p>	<p>・意欲的に学習に取り組めるような導入や課題づくりの工夫・改善を行う。</p> <p>・児童の思考の流れに沿った授業展開や教材・教具、板書などの工夫をする。</p> <p>・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」を活用し、定期的に取り組む見直すことで意欲が持続できるようにする。</p> <p>・家庭と連携しながら、ノーメディアデーを推進し、家庭読書の時間を確保する。</p>	<p>【わかたけ】</p> <p>・興味関心のある学習を取り入れ、粘り強く取り組む。</p> <p>【低学年】</p> <p>・学習のしつけを身に付けさせるために、習慣化されるまで繰り返し指導する。「テンテン便り」も参考にする。</p> <p>【中学年】</p> <p>・発表ができる児童に育てるため、答えを選択したり付け加えて理由を発表するなど、段階的に発言内容を増やしていく工夫をする。</p> <p>・話し手の方におへそを向ける、自分の考えと比べながら話を聞くなど、聞く態度を向上させる指導をする。</p> <p>【高学年】</p> <p>・自らの振り返りの時間を確保すると共に、できた実感や達成感を体感させる。</p> <p>・自主学習を通して、自分のできていないところを理解させる。</p>	<p>【わかたけ】</p> <p>・トークンの活用により、学習に意欲的に取り組むことができた。</p> <p>【低学年】</p> <p>・学習中、やるべき課題に向かって真面目に学習に取り組むことができた。</p> <p>【中学年】</p> <p>・自分の意見を明らかにする、理由を発表するなど、段階的に発言内容を増やしていく工夫をすることで自信をもって発表できる児童が増えてきた。</p> <p>・具体的な指導により、集中して聞いたり意欲的に内容を理解して聞いたりでき、学習態度を向上させることにつながった。</p> <p>【高学年】</p> <p>・問題解決学習を行うことで見通しや予想、自分の考えをもって学習に取り組めた。(算数・理科)</p> <p>・GTを活用することで、関心をもって見学やインタビューができた。気付きや考えも友だちと協働してまとめられた。</p> <p>・自分の課題をもって自主勉強ができた。</p>	<p>【わかたけ】</p> <p>・体験的な活動をできるだけ取り入れ、主体的にできるよう工夫を図る。</p> <p>【低学年】</p> <p>・聞く力を高めるためにも、朝の活動などでコグトレに取り組む、集中力を高めしていく。</p> <p>【中学年】</p> <p>・自分の気持ちや考えを発言する機会を設けることで自他の違いや個性を大切にできる気持ち(自尊心)を育て、学習に主体的に取り組もうとする意欲につなげていきたい。</p> <p>【高学年】</p> <p>・ノーメディアデーの更なる推進を家庭に啓発し、家庭読書の時間を確保して読書習慣を身に付けさせていく。</p> <p>・学習の成果や課題に児童が気付き、これからの学習について考えられるようにする。</p>

令和5年度 学力向上ロードマップ



